

不具合対応にも使えるコントロールパネル (Win.8 用)

パソコン救済勉強会 2013(H25).2.24

2013(H25).1.4 T.Ogawa

コントロールパネルは、パソコン（ハードウェア、Windows、ソフトウェア等）の設定を行うための制御盤コントロール パネル (control panel) としての機能を集めたシステム設定ツールである。Windows パソコンはコントロールパネルを操作してパソコンの機能・動作・表示・操作等をカスタマイズしユーザの好みに合うように設定できるようになっている。

当初は「故障時のコントロールパネル操作」のタイトルで資料を作ろうとしたが、故障に遭遇してコントロールパネルの操作で問題を解決したことが無いので故障時のコントロールパネルについて筆が進まなかった。そこで発想を変えて、冒頭でも述べているようにコントロールパネルの主な目的がパソコンをカスタマイズし使いやすくするための操作盤であることから、可能な限りシステムが不具合（不調を含む）になった時に使えると思われる項目について説明することとした。

本資料は、パソコン救済サイトへのアップロードサイズが 2MB 以下に制限されているため、作成した資料を Win.7 用と Win.8 用に分割して、Windows 8 のコントロールパネルだけを抽出したものです。

目次

1. 不具合等に関するコントロールパネルの機能	1
2. コントロールパネルの起動と表示方法	2
2.1. コントロールパネルの起動	2
2.2. 「表示方法」の選択	3
3. 不具合対応のコントロールパネル操作	4
3.1. システム修復メディアの作成	4
3.1.1. リカバリメディアの作成 (USB メモリ使用)	4
3.1.2. リカバリメディアの作成 (DVD 使用)	5
3.1.3. システム修復ディスク (CD) の作成	7
3.2. プログラム修復 (プログラム不調時)	7
3.3. システムの復元 (システムを以前の状態に戻す)	9
3.3.1. 復元ポイントの作成	9
3.3.2. [復元ポイント] を指定してシステムを復元	11
3.4. 自動修復 (ブート失敗の問題解決ツール)	14
3.5. バックアップ/復元	16
3.5.1. システムイメージを外付 HDD にバックアップ	17
3.5.2. イメージバックアップからシステム HDD を復元	20
3.6. リフレッシュとリセット	21
3.6.1. リフレッシュ	21
3.6.2. リセット	23

1. 不具合等に関するコントロールパネルの機能

コントロールパネルには、システムを使い勝手を良くするためのカスタマイズ機能の他に、システムが不具合（不調を含む）になった場合にシステムを回復するための次のような機能がある。

回復方法		回復の概要	Windows バージョン			
			Win.8	Win.7	Win.Vista	Win.XP
3.1	修復メディアの作成	リカバリ USB メモリ/DVD の作成と起動失敗修復 CD の作成	○	○	?	?
3.2	プログラム修復	不調になったプログラムを修復する	○	○	○	○
3.3	システムの復元	システムを以前の状態（復元ポイント）に復元する	○	○	○	○
3.4	自動修復	Windows のブート失敗の原因を検出して、可能なら修復する	○	注 1	注 1	×
3.5	バックアップ／復元	システムイメージをバックアップし、それからシステムを復元する また、データ（フォルダ／ファイル）をバックアップし、それからデータを復元する	○	○	○	○
	リフレッシュ	ユーザが作成／設定したデータ ^(注2) を除くファイル類を新規作成（初期化）する。あるいは削除する	○	×	×	×
	リセット	ほぼ新規インストール直後の状態にシステムを戻す・・・再インストールに近い（言語指定、パーティション指定は不要）	○	×	×	×

(注 1) 同様の機能を Win.7、Win.Vista では「スタートアップ修復」と呼ぶ。手動起動では Win.7 は [システム回復オプション] の [スタートアップ修復] から、Win.8 は [コンピュータの修復] の [オプション選択] の [トラブルシューティング] から呼び出す。

(注 2) 具体的には、①C:ドライブのユーザ作成フォルダ、②C:以外のドライブの内容、③ユーザアカウント設定、④グループ設定、⑤パスワード、⑥ドメイン参加設定、⑦ライセンス承認情報、⑧ホームグループ設定、⑨ドライブ文字、⑩ファイルとプログラムの関連付け、⑪地域と言語設定等

2. コントロールパネルの起動と表示方法

2.1. コントロールパネルの起動

Win.8 のデスクトップ画面には [スタート] ボタンが無いので Win.7 以前の Windows と同様の操作で [コントロールパネル] を開くことはできない。Win.8 では次のような方法でコントロールパネルを開く。

方法 1) ショートカットキーを用いて開く

スタート画面またはデスクトップ画面で次によりコントロールパネルを開く。

- ① **Windows** + **X** のショートカットキーでメニューを表示
- ② [コントロールパネル] をクリック (タップ) して、コントロールパネルを開く

方法 2) デスクトップ画面からチャームを表示して開く

デスクトップ画面から次によりコントロール画面を開く。

- ① デスクトップ画面の右下隅 (または右上隅) をポイントして、チャームを表示
(参考) **Windows** + **C** のショートカットでもチャームを表示できる
- ② [設定] をクリック (タップ) して、メニューを表示
- ③ [コントロールパネル] をクリック (タップ) して、コントロールパネルを開く

方法 3) スタート画面のタイルから開く

スタート画面から次によりコントロール画面を開く。

<3-1> スタート画面に [コントロールパネル] が表示されている場合

[コントロールパネル] をクリック (タップ) して、コントロールパネルを開く。

<3-2> スタート画面に [コントロールパネル] が表示されていない場合

【手順 その 1】

- ① スタート画面の下部を右クリック (タッチアンドホールド: 長押し) して、[すべてのアプリ] ボタンを表示
- ② [すべてのアプリ] をクリック (タップ) して、インストールされているすべてのアプリケーションを表示
- ③ [Windows システムツール] グループにある [コントロールパネル] をクリック (タップ) して、コントロールパネルを開く

【手順 その 2】

- ① スタート画面の右下隅 (または右上隅) をポイント (タッチ) して、チャームを表示
- ② [検索] をクリック (タップ) して、[検索] 窓を表示
- ③ 「こん」と入力すると、ヒットする (こん…、コン…等) プログラムを表示
- ④ [コントロールパネル] をクリック (タップ) して、コントロールパネルを開く

2.2. 「表示方法」の選択

ここでは Windows 8 のコントロールパネルの表示方法について説明する。

【手順】

- ① 画面の右上にある「表示方法」の▼をクリックしてメニューを表示



- ② 目的の表示方法を選択して表示方法を切り替える



【カテゴリ表示の例】



【小さいアイコンの例】



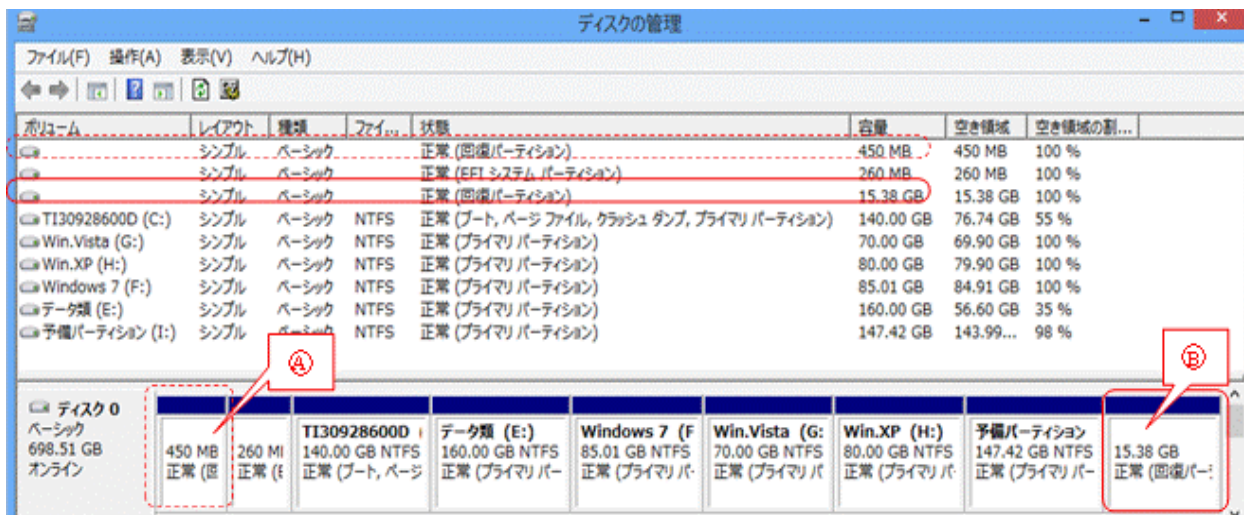
3. 不具合対応のコントロールパネル操作

3.1. システム修復メディアの作成

内蔵 HDD が数 100GB を超えるようになった Win.8 プリインストール PC では、リカバリ DVD を添付しない製品が大半である。

その代わりに、Win.8 プリインストール PC の内蔵 HDD の最後部 (B) には下図に示すような「回復パーティション」と呼ばれる 20GB 前後の隠しパーティションがある。これは Win.Vista 以前のプリインストール PC に添付されていたリカバリ DVD に代わるものである。

【例】 Win.8 の [ディスク管理] 画面



Win.8 プリインストール PC には、HDD 最前部 (A) と最後部 (B) にエクスプローラでは表示されない [回復パーティション] と呼ばれる ID=0x27 の隠れパーティションがある。

(A) の回復パーティションには、Windows 回復環境 (Windows RE : bootmgr、BCD、efi 等) が収められている。また (B) の回復パーティションには、Windows RE、システムイメージ (BOOTMGR、bcd、efi、Windows のイメージ、プリインストールアプリのイメージ等) が収められている。

不幸にして内蔵 HDD に不具合が発生した場合は、回復パーティションが読み出せなくなり、リカバリが不可能になる。**内蔵 HDD 不具合によるリカバリ不能を避けるためプリインストール PC を購入したら遅滞なくリカバリ DVD を作成しておくことが重要**ある。

また、Windows が起動に失敗した時に自動修復 (Win.7 ではスタートアップ修復) が実行できない場合等に備えてシステム修復ディスク (CD) を作成しておく必要がある。

3.1.1. リカバリメディアの作成 (USB メモリ使用)

Win.8 プリインストール PC には、[コントロールパネル] を用いて USB メモリに回復ドライブを作成するツールがある。

しかし筆者の TOSHIBA 製の Win.8 プリインストール PC では、作成先ドライブとして USB メモリ (32GB) を認識できず作成できなかったため、本資料では Web 記事を基にして USB メモリを作成先にしたリカバリメディアの作成方法を記述した。

なおリカバリメディアには、20GB 前後の容量が必要なので 32GB の USB メモリを準備すること。

(参考) 2013(H25).2.1 現在の USB メモリ (32GB) のネット通販価格 1,500~2,000 円程度 (送料、代引込) である。なお USB メモリのデータは長期保存で劣化するので注意が必要である。

【手順】

- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] を開く
- ② [システムとセキュリティ] をクリックして、[システムとセキュリティ] 画面を表示
- ③ [アクションセンタ] をクリックして、[アクションセンタ] 画面を表示
- ④ [回復] をクリックして、[回復] 画面を表示
- ⑤ [回復ドライブの作成] をクリックし、続いて [はい] をクリックして、[回復ドライブ] 画面を表示
- ⑥ [次へ] をクリックして、[回復ドライブ (USB フラッシュドライブの接続)] 画面を表示
- ⑦ 指定容量以上の USB ドライブを挿入すると、使用可能な USB メモリを検索
(注) 筆者が使用した TOSHIBA 製の Win.8 プリインストール PC では、挿入した USB メモリ (32GB、USB3) を作成先メディアとして検出しなかった。
憶測の域を出ないが、メーカーから専用のリカバリ DVD 作成ツールが添付されているので、この機能を削除しているのだろうか？
- ⑧ USB メモリを検出したら、[回復ドライブ (USB フラッシュドライブの選択)] 画面を表示
- ⑨ 目的の作成先 USB メモリを選択
- ⑩ [次へ] をクリックして、[回復ドライブ (回復ドライブの作成)] 画面を表示
- ⑪ [作成] をクリックして、[回復ドライブ (回復ドライブを作成中)] の進捗画面を表示
- ⑫ 作成が完了したら、[回復ドライブ (回復ドライブの準備ができました)] 画面を表示
- ⑬ [完了] をクリックして、作成処理を終了

3.1.2. リカバリメディアの作成 (DVD 使用)

DVD を用いて内蔵 HDD の最前部の隠れパーティション (回復パーティション) からリカバリメディアを作成する場合は、各メーカーが提供する「リカバリ DVD 作成ツール (仮称)」を使用する。

リカバリ DVD の作成には、DVD-R (4.7GB) で 4~6 枚、DVD-R DL (8.5GB) で 2~3 枚を準備しておく必要がある。なお DVD-R DL は、書き損じが発生しやすいので自パソコンのメーカーが推奨している国産メーカーの DVD-R DL を使用することが望ましい。

(参考) 使用した TOSHIBA 製 Win.8 プリインストール PC では、TDK 製 DVD-R DL で半分がベリファイ (読み取り検査) でエラーが発生し、TOSHIBA が推奨している太陽誘電製 DVD-R DL でエラーが発生しなかった。

1) 書き込みの失敗を防ぐための事前準備

一般のデータ類 (文書、音楽、画像、映像等) と違って、プログラム類 (システム、アプリ、設定等) は 1 ビットのエラーも許されないなので、リカバリ DVD の作成にあたっては細心の注意が必要である。

リカバリ DVD の作成中に予期しない割り込み等が発生して DVD 作成が失敗するのを防ぐために、リカバリ DVD 作成にあたっては次の手順により割り込みを防ぐことを推奨する。

《電源タイマーによる割り込みの防止》

- バッテリ切れによるトラブルをなくすため、必ず電源に接続して AC 電源から電力を供給する
- スクリーンセーバを禁止

【手順】

- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] をクリックし、続いて [デスクトップのカスタマイズ] をクリッ

クして、[デスクトップのカスタマイズ] 画面を表示

- ② [個人設定] の [スクリーンセーバの変更] をクリックして、[スクリーンセーバの設定] 画面を表示
- ③ [スクリーンセーバ] の▼でメニューを表示させ「なし」を選択した後、[OK] をクリック

▶ ディスプレイのタイマーによる制御を禁止

【手順】

- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] をクリックし、続いて [ハードウェアとサウンド] をクリックして、[ハードウェアとサウンド] 画面を表示
- ② [電源オプション] の [コンピュータがスリープ状態になる時間を変更] をクリックして、[プランの編集] 画面を表示
- ③ [電源に接続] の [ディスプレイを暗くする] で「適用しない」を選択
- ④ [電源に接続] の [ディスプレイの電源を切る] で「適用しない」を選択
- ⑤ [電源に接続] の [コンピュータをスリープ状態にする] で「適用しない」を選択
- ⑥ [変更の保存] をクリックして設定を終わる

《ハード、ソフトからの割り込みを無くす》

- ▶ USB メモリ、プリンタ、スキャナ、LAN ケーブル等を取り外し、無線 LAN を停止する
- ▶ セキュリティ対策ソフトを停止する
- ▶ 不要なソフトを停止する

2) リカバリ DVD の作成 (TOSHIBA 製 Win.8 プリインストール PC の場合)

ここでは、Win.8 プリインストール PC の HDD が不具合になった場合等に、交換した HDD を購入時の状態に戻す時に必要なリカバリ DVD を作成する方法について説明する。

Win.8 プリインストール PC では、回復パーティションからリカバリ DVD を作成するツールを各メーカーが個別に提供しているので、自パソコンに添付されているマニュアルに従って作成すること。

【手順】

ここでは、TOSHIBA Daynabook Satellite (Win.8 プリインストール) の「回復ドライブ作成」ツールを例に説明を行う。

- ① [回復ドライブ作成ツール] の起動
(詳細手順) [チャーム] を表示し、[検索] 窓を開いて「リカバリ」と入力すると、ヒットするプログラムを表示するので、[リカバリメディア作成ツール] を選択して起動
- ② メディアの種類を選択
(捕捉) 「DVD4.7GB」は DVD-R、「DVD8.5GB」は DVD-R DL、「USB フラッシュ」は USB メモリを指す
- ③ [比較] にチェックが付いていることを確認

【重要】 文書、画像、映像、音楽等は僅かな書き込みエラーは許せるが、システム (プログラム、設定等) は 1 ビットのエラーも許されないので比較によるチェックは絶対条件である。特に 2 層式の DVD-R DL (8.5GB) は国産品といえどもエラーが発生しやすいので、自パソコンのメーカーが推奨 (例: 太陽誘電製等) する高品質なものが望ましい。

- ④ メディアの枚数が表示されるので、必要数 (例: DVD-R DL × 3 枚、32GB の USB メモリ等) を準備
- ⑤ [作成] をクリックすると、メディア (例: DVD-R DL) の挿入要求を表示
- ⑥ メディア (例: DVD-R DL) を挿入した後、[OK] をクリックすると、進捗状況を表示

- ⑦ 作成と比較が終わると、DVD-R DL を排出した後、次の DVD-R DL の挿入要求

【重要】 複数のメディアを使う場合は、作成された順番を明記すること

- ⑧ 全ての作成が終わったら、[閉じる] で処理を終了する

3.1.3. システム修復ディスク (CD) の作成

ここでは、Win.8 プリインストール PC の内蔵 HDD の最前部の隠れパーティション (回復パーティション) から、システム修復ディスク (Windows 回復環境=Windows RE) を作成する方法を説明する。

【手順】

- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] を表示
- ② [システムとセキュリティ] をクリックし、続いて [アクションセンタ] をクリックして、[アクションセンタ] 画面を表示
- ③ [回復] をクリックして、[回復 (高度な回復ツール)] 画面を表示
- ④ [回復ドライブの作成] をクリックし、[はい] と応答して、[回復ドライブ (回復ドライブの作成)] 画面を表示
- ⑤ 「回復パーティションを PC から回復ドライブにコピーします」のチェックを外した後、[次へ] をクリックして、[回復ドライブ [USB フラッシュドライブの接続]] 画面を表示
- ⑥ [代わりに CD または DVD でシステム修復ディスクを作成します] をクリックすると、[システム修復ディスクの作成] 画面を表示し、CD/DVD の挿入を求める
- ⑦ CD-R を挿入
(注) システム修復ディスクの容量は 200~300MB 前後なので、データ用 CD-R (700MB) を使用
- ⑧ [ディスクの作成] をクリックすると、ディスク作成の進捗画面を表示
- ⑨ 「システム修復ディスクが完成しました」メッセージが表示されたら、[OK] をクリックして処理を終わる

3.2. プログラム修復 (プログラム不調時)

ここでは、プログラムが不調 (不安定、挙動不審等) になった時に、アンインストール&再インストールすることなく、[コントロールパネル] の機能で簡単にプログラムを修復する方法について説明する。ただし、この方法で修復できるプログラムは少ないので、過度の期待はしないほしい。

【重要】 修復可能なプログラムはごく一部に限られる。

サブマシンの Win.7 にプリインストールされていた「MS Office Personal 2010 (32bit)」はプログラム修正ができたが、メインマシンの Win.8 にプリインストールされていた「MS Office Home and Business 2010 (64bit)」では「アンインストール」だけを操作メニューに表示し、「修復」or「変更」は表示されなかった。

このように、**すべてのプログラムが修復可能になっているわけではない。**

~~プログラム修復の例として、メインマシンの Win.8 にプリインストールされている Windows Live Essentials 2011 を用いて、プログラム修正の手順について説明する。~~

2013.2.9 に Microsoft Office Home and Business 2013 の無償アップグレード版のダウンロードが開始されたので、早速それをダウンロード&インストールしたところプログラム修復が可能になっていた。

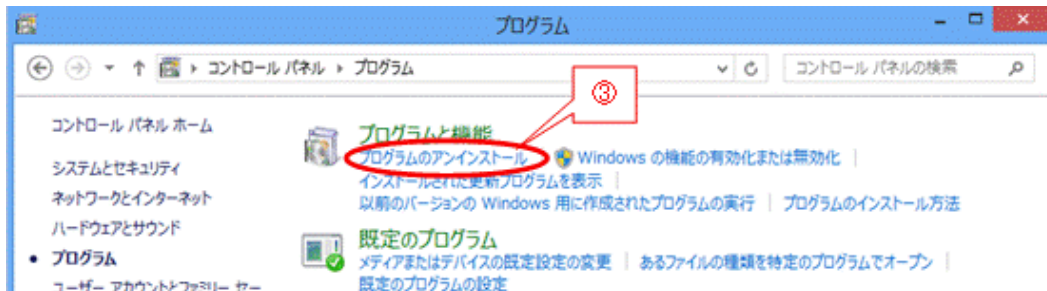
以下は、アップグレードした Microsoft Office Home and Business 2013 を例に説明する。

【手順】

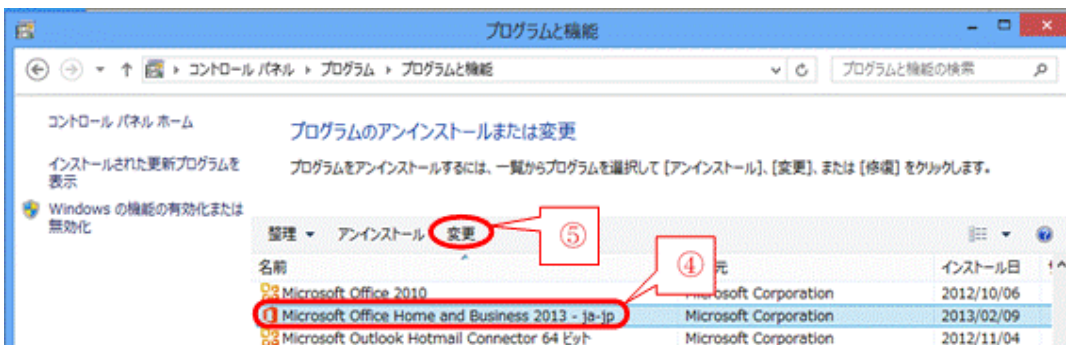
- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] を表示
- ② [プログラム] をクリックして、詳細項目を表示



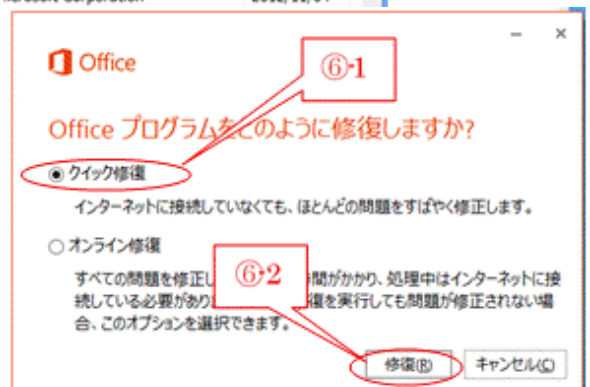
- ③ [プログラムのアンインストール] をクリックして、プログラムリストを表示



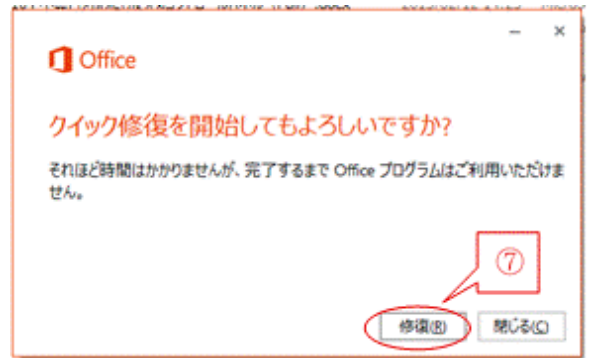
- ④ 修復するプログラム (例 : Microsoft Office Home and Business 2013) を選択すると、操作メニューとして [アンインストール] と [変更] を表示
- ⑤ [変更] をクリックして [Office プログラムをどのように修復しますか] 画面を表示



- ⑥ [クイック修復] がオンであることを確認した後、[修復] をクリックすると、[クイック修復を開始してもよろしいですか] 画面を表示



⑦ [修復] をクリックすると、修整中の進捗画面を表示



⑧ [修正が完了しました] 画面が表示されたら、
[閉じる] をクリックして処理を終わる



3.3. システムの復元（システムを以前の状態に戻す）

Windows には [システムの復元] と呼ばれる、システムに問題（例：動作が遅い、機能が正常でない等）が発生した場合に、システムを以前の状態に戻す機能がある。

システムの復元は、システムに加えられた変更点を復元ポイントとして記録しておき、必要に応じて過去の復元ポイントを選択し、その変更が加えられる直前の状態にシステムを戻すシステムツールである。

なお、システム復元を用いてシステムを以前の状態に戻しても、電子メール、ドキュメント、写真などの個人用ファイルは現状のまま維持される。

3.3.1. 復元ポイントの作成

Windows には、[システムの保護] と呼ばれる機能があり、次のタイミングで Windows システムファイル、プログラム、レジストリ設定等に関する情報を「復元ポイント」として記録する機能がある。

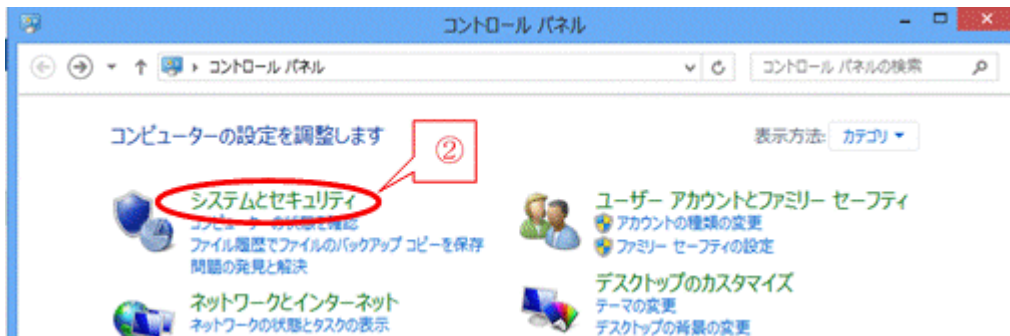
- ▶ 定期的（直前の復元ポイントから 7 日経過）に自動的に記録
- ▶ 重要なシステムイベント（Windows Update、プログラム／ドライバのインストール等）時に自動的に記録（何故か、例外的にインストール時に復元ポイントが作成されないプログラムもある）
- ▶ 必要に応じて、手動で記録

【重要】復元ポイント用エリアのサイズと古い復元ポイントの自動削除

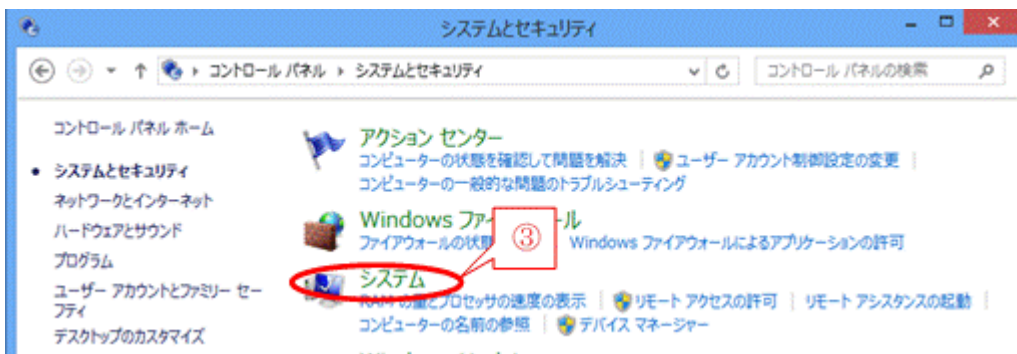
- ・ 復元ポイント用エリアのサイズは、既定ではシステムドライブ（例：C:ドライブ）の 3～5% が確保されているが、任意のサイズに変更できる
- ・ 新たな復元ポイントを作成するには、復元ポイント用エリアに 300MB 以上の空きが必要である
- ・ 空きが 300MB 未満の場合は、自動的に古い復元ポイントから順に削除して十分な空きエリアを確保した後に、新しい復元ポイントが作成される

【手順】

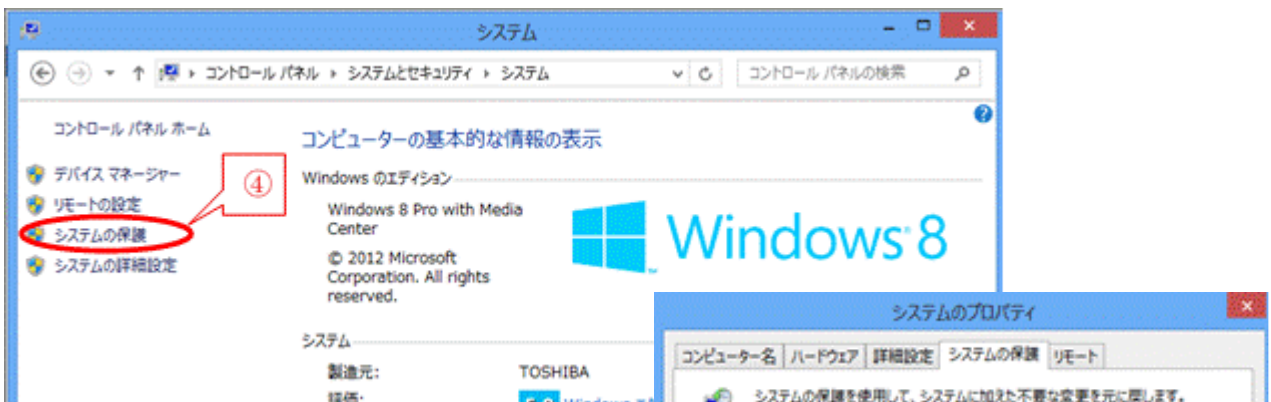
- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] を表示
- ② [システムとセキュリティ] をクリックして、[システムとセキュリティ] 画面を表示



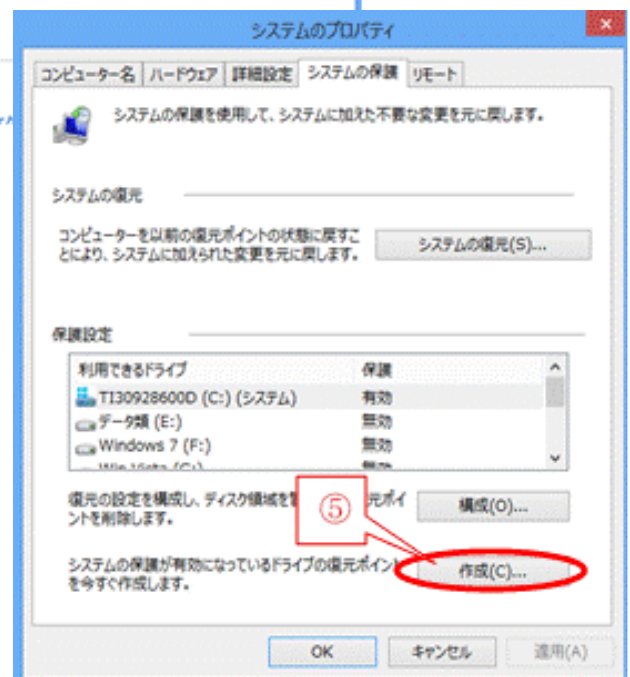
- ③ [システム] をクリックして、[システム] 画面を表示



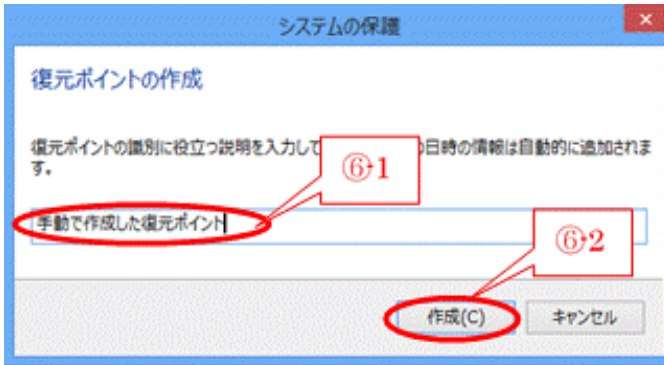
- ④ [システムの保護] をクリックして、[システムのプロパティ] 画面の [システムのプロパティ] パネルを表示



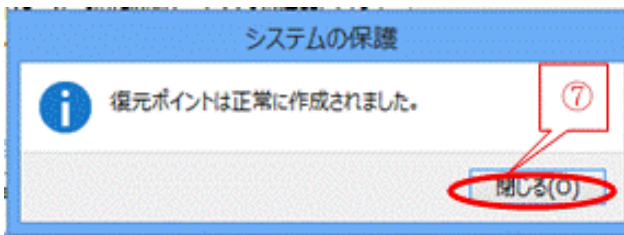
- ⑤ [作成] をクリックして、[復元ポイントの作成] 画面を表示



- ⑥ 入力欄に復元ポイント名（例：「手動で作成した復元ポイント」）を入力した後、[作成] をクリックすると進捗画面を表示



- ⑦ 「復元ポイントは正常に・・・」が表示されたら、[閉じる] をクリックして処理を終わる

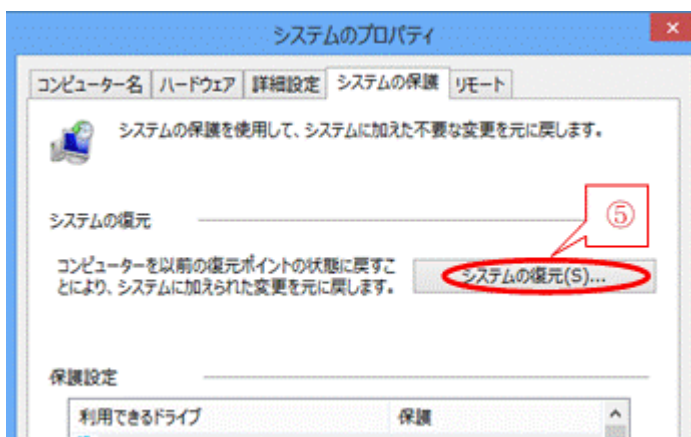


3.3.2. 「復元ポイント」を指定してシステムを復元

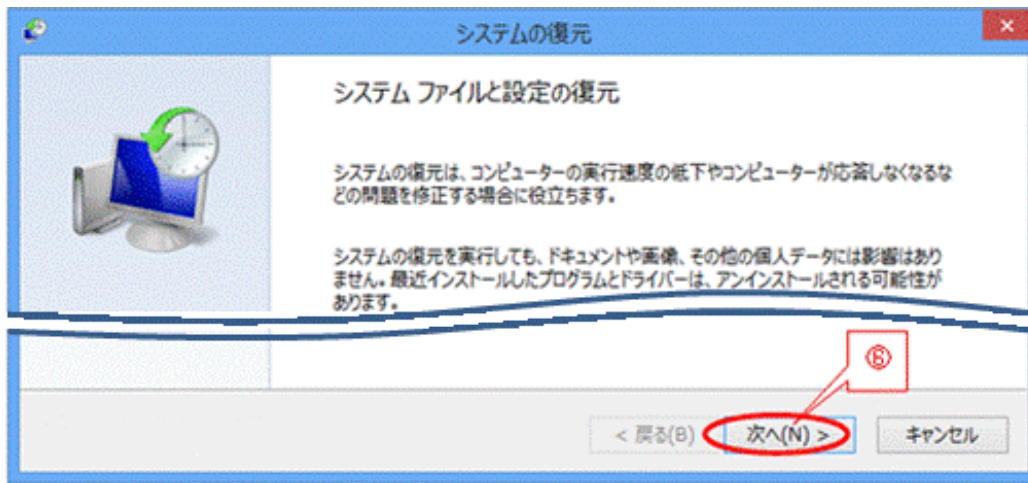
ここでは、自動／手動で作成された復元ポイントを用いて、復元ポイントを作成する直前の状態にシステムを復元しシステムに発生した問題（例：動作が遅い、機能が正常でない等）を解決する方法について説明する。

【手順】

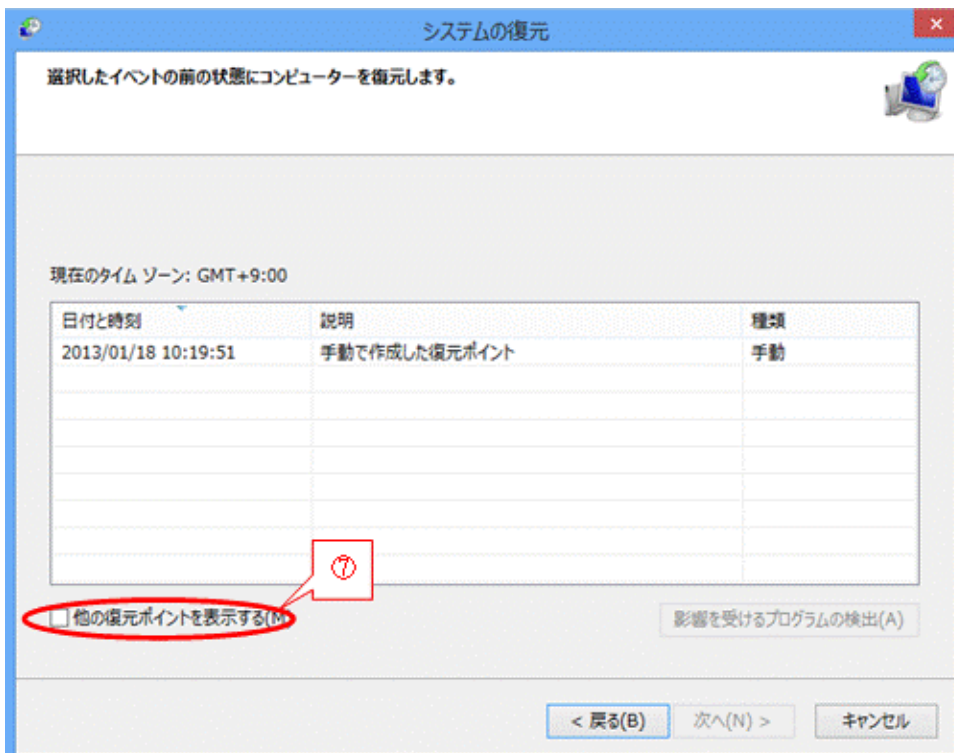
- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] を表示
- ② [システムとセキュリティ] をクリックして、[システムとセキュリティ] 画面を表示
- ③ [システム] をクリックして、[システム] 画面を表示
- ④ [システムの保護] をクリックすると [システムのプロパティ] 画面の [システムの保護] パネルを表示
- ⑤ [システムの復元] をクリックして、[システムの復元 (システムファイルと設定の復元)] 画面を表示



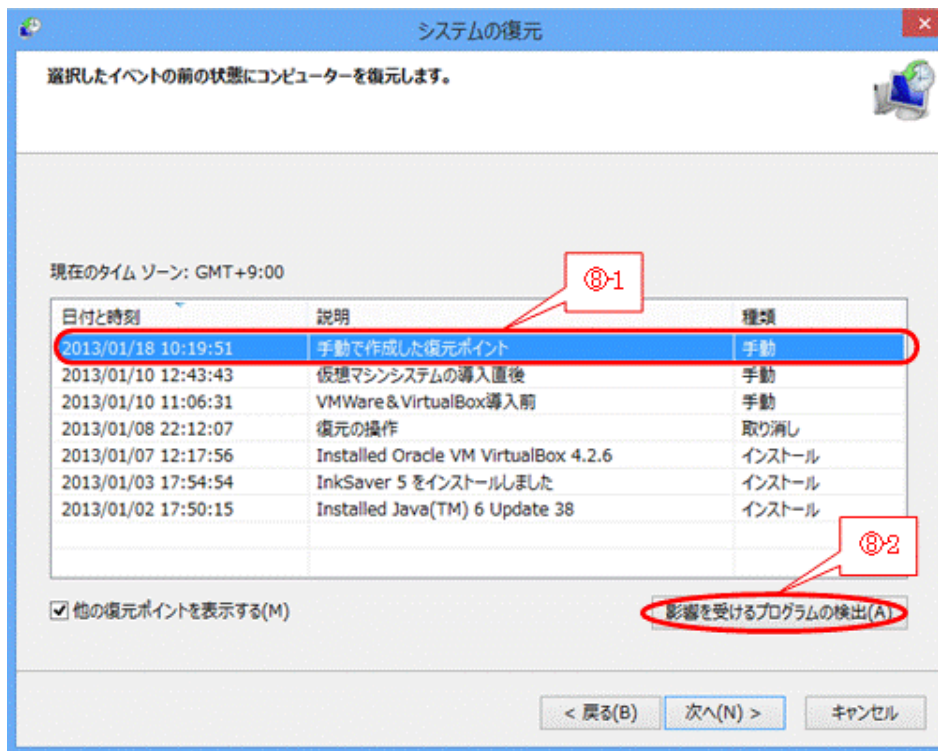
- ⑥ [次へ] をクリックして、推奨する（直前の）復元ポイント画面を表示させる



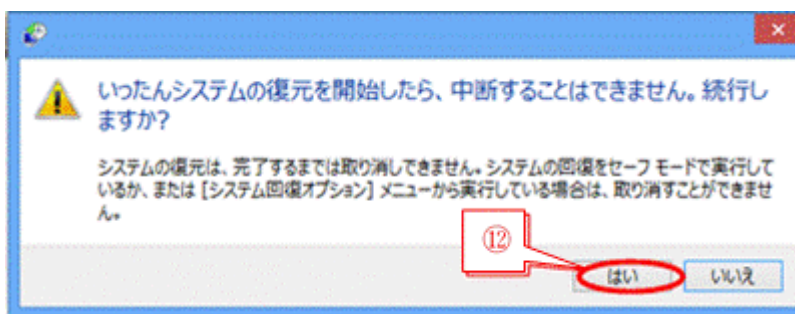
- ⑦ さらに以前の復元ポイントを表示したい場合は、
[他の復元ポイントを表示する] にチェックを付けると、[システムの復元（選択したイベントの前の状態にコンピュータを復元します）] 画面にすべての復元ポイントを表示



- ⑧ 目的の復元ポイント（例：手動作成の復元ポイント）を選択した後、
 [影響を受けるプログラムの検出] をクリックして、復元した場合の影響を念のために確認する
 （補足）一般的には確認は不要と思われるので、手順⑩に進むことを推奨する



- ⑨ 復元による影響を確認した後、[閉じる] をクリックして確認画面を閉じて、元の [システムの復元（選択したイベントの前の状態にコンピューターを復元します）] 画面に戻る
- ⑩ 目的の復元ポイント（例：手動で作成した復元ポイント）を選択した後、
 [次へ] をクリックして [システムの復元（復元ポイントの確認）] 画面を表示する
- ⑪ [完了] をクリックすると、[・・・続行しますか] 確認メッセージを表示する
- ⑫ [はい] をクリックして、システムの復元を実行する



（注）以下の処理手順は、再起動等が行われるので記録できなかった。

3.4. 自動修復（ブート失敗の問題解決ツール）

システムファイルが見つからなかったり破損したりしているなどの問題があると、Windows が正しく起動しない場合がある。XP までは Windows の起動に失敗した場合には、手間と時間がかかる Windows の再インストールを行う必要があった。

Vista 以降では Windows の起動に失敗した場合に、起動を妨げている問題を自動的に検索して、コンピュータが正常に起動できるように問題の解決を試みるツールが追加された。

Win.8 の「自動修復」は Win.Vista、Win.7 の「スタートアップ修復」に代わる機能であり、Win.XP にはこれらに相当する機能は無い。

1) 自動修復（Windows RE）が自動的に始まる場合

Win.8 の「自動修復」は、何らかの原因で Win.8 が起動しなくなった場合に、自動的に Windows 回復環境（Windows RE : Recovery Environment : リカバリ エンバイラメント）がフェイルオーバー（fail over : 自動的に予備システムに処理を引き継ぐ）して起動され、自動的に問題点を検出し修復を試みる。

（捕捉）Win.RE フェイルオーバーの仕組みは、おおよそ次のとおりである。

システム起動時に、Windows ロードが起動開始フラグをオンにし、ログオン画面表示前に同フラグをクリアする。このため、起動途中で失敗した場合は同フラグがオンのままになる。

次のシステム起動時に起動フラグがオンのままであれば、Windows ロードは Win.8 に代えて Win.RE を起動する。

2) 自動修復（Windows RE）が自動的に始まらない場合

Win.8 の起動に失敗した後のシステム起動時に、「自動修復」が自動的に開始されない場合は、手動で [自動修復] を起動して Win.8 の起動を妨げる問題を診断して、可能なら修復する。

【手順】

- ① [電源] の **Shift** + [シャットダウン] で完全シャットダウン

【重要】 [高速スタートアップ] 機能と「完全シャットダウン」について

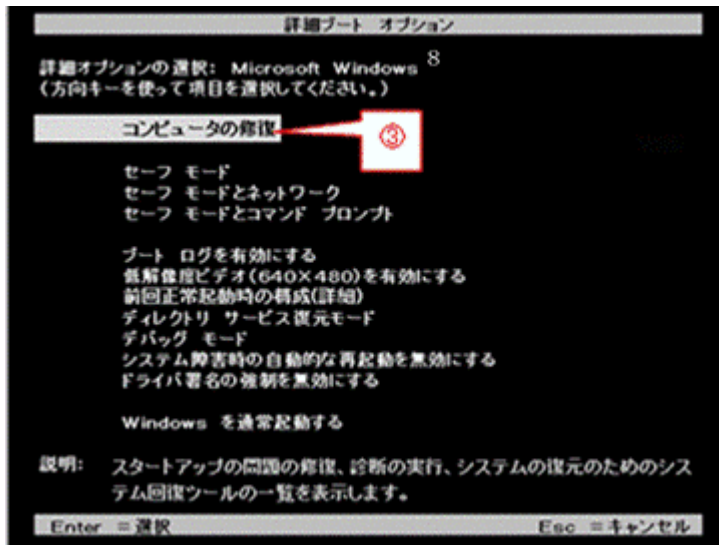
Win.8 では、従来の休止状態（ハイバネーション hibernation）に起動時のドライバ等の初期化機能を追加した [高速スタートアップ] 機能を既定としている。これにより Win.8 のシャットダウンは、休止状態（現状を HDD に保存）に移行して休止するだけの処理になり、従来の [休止] と同等に高速化された。また Win.8 の起動は従来の [休止からの再開] + α（初期化機能）に高速化した。

これに対して、Win.8 を完全に終了させるシャットダウンは「完全シャットダウン」と呼ばれ、**Shift** + [シャットダウン] で行うように変更された。同様に、Win.8 を完全に終了させる完全な再起動は、**Shift** + [再起動] で行うように変更された。

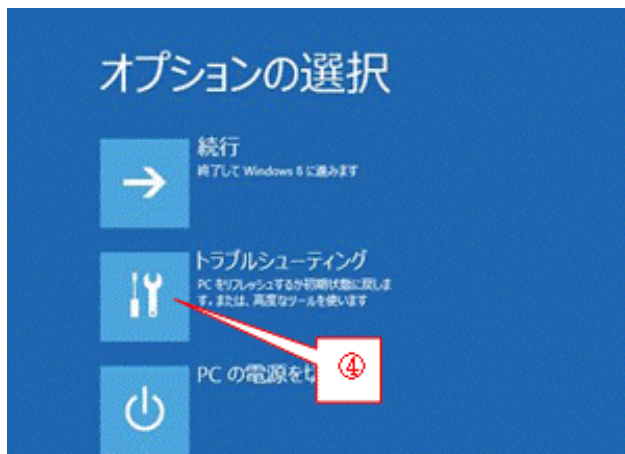
（注）**Shift** + [再起動] で完全再起動（仮称）を指示し、シャットダウン進行中に **F8** キーを押し続けると、[詳細ブートオプション] 画面を経ずに [オプション選択] 画面に進む。

- ② **F8** キーを押した状態で電源をオンにして、[詳細ブートオプション] 画面を表示

- ③ ↓ / ↑ キーで [コンピュータの修復] を選択した後、
Enter キーを押すと [オプション選択] 画面を表示



- ④ [トラブルシューティング] をクリックして、[トラブルシューティング] 画面を表示



- ⑤ [詳細オプション] をクリックして、[詳細オプション] 画面を表示



- ⑥ [自動修復] をクリックすると、内蔵 HDD の最前部にある Windows 回復環境 (Windows RE) がロードされ、[自動修復 (アカウント)] 画面を表示



- ⑦ 管理者権限のアカウントをクリックすると、[自動修復 (パスワード)] 画面を表示
- ⑧ パスワードを入力し、[続行] をクリックし、PC の診断を実行
(注) 選択した管理者アカウントにパスワードを設定していない場合は、パスワードを入力せず [続行] をクリック
- ⑨ 自動修復が終了したら、[シャットダウン] をクリックして処理を終わる。

3.5. バックアップ／復元

Windows には、3.3 節 [システムの復元] で説明した復元ポイントによるシステムファイル等の復元の他に、外部記憶媒体 (例：外付 HDD、DVD/BD 等) を用いたシステムイメージバックアップ^(注1)、ファイルバックアップ^(注2) 等によるバックアップ／復元の機能が備わっている。

(注1) システムイメージバックアップは、コンピュータや内蔵 HDD が不具合になった場合でも、外部記憶媒体にバックアップしたシステムイメージからコンピュータをバックアップ時点の状態に復元する機能である。

(注2) ファイルバックアップは、指定したユーザデータ (ファイル/フォルダ) を自動/手動で外部記憶媒体にバックアップしておき、ユーザデータをバックアップ時点の状態に復元する機能である。

ここではイメージバックアップについて説明を行う。

なお、ファイルバックアップについては 2010(H22).4.25 の勉強会「バックアップとメンテナンス」の第3章で説明した BunBackup (最新 Ver.3.6 2012/12/04 公開) を筆者は推奨する。このフリーソフトについては 4 年ほど使用していて重宝している。

ダウンロード先：<http://www.forest.impress.co.jp/library/software/bunbackup/>

【重要】USB 接続の外付 HDD を準備する必要がある

ネット通販での USB 接続の外付 HDD の価格は驚くほど安くなっている (2013/01/18 現在)。

- ・ USB2.0 接続 1TB : 6,000~7,000 円、2TB : 8,000~10,000 円
- ・ USB3.0 接続 1TB : 6,500~8,000 円、2TB : 9,000~12,000 円

(参考) 私見ではあるが、機能 (バックアップ、復元、クローン)、操作性から見て、イメージバックアップの作成については、2010(H22).4.25 の勉強会「バックアップとメンテナンス」の4章 [システム HDD を外付 HDD へ B.U.] で説明したフリーソフトの **EaseUS Todo Backup Free** (最新 v5.6、2013/01/31 改版) を推奨したい。

ダウンロード先 : <http://www.forest.impress.co.jp/library/software/easeustodobu/>

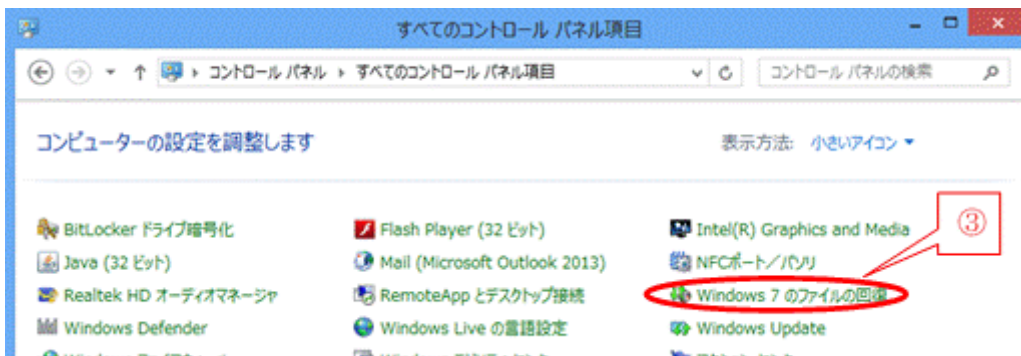
3.5.1. システムイメージを外付 HDD にバックアップ

ここでは、システムに不具合 (Windows の不具合、システム HDD の不具合) が発生した場合に、システムイメージからバックアップ時点の状態に復元するために使用するイメージバックアップの作成について説明する。

【手順】

システムイメージのバックアップには、200GB 前後の容量が必要なので、処理に先立って条件を満足する外付 HDD を接続しておくこと。

- ① [コントロールパネル (カテゴリ)] を表示
- ② 表示方法を [小さいアイコン] に変更
(捕捉) カテゴリ表示では、Win.7 から Win.8 に引き継がれている [Windows 7 のファイルの回復] が表示できない。
- ③ [Windows 7 のファイルの回復] をクリックして、[Windows 7 のファイルの回復] 画面を表示

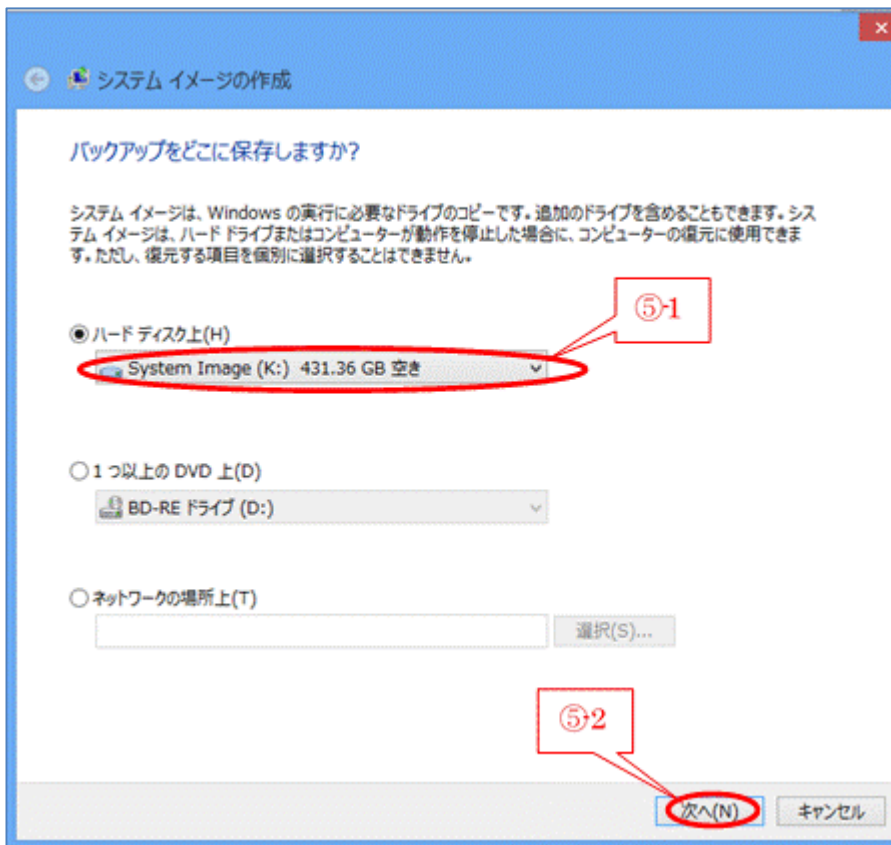


(捕捉) この機能は、Windows 7 の [コントロールパネル] の [バックアップと復元] を流用したものであり、[カテゴリ表示] からは画面を開けなかった。

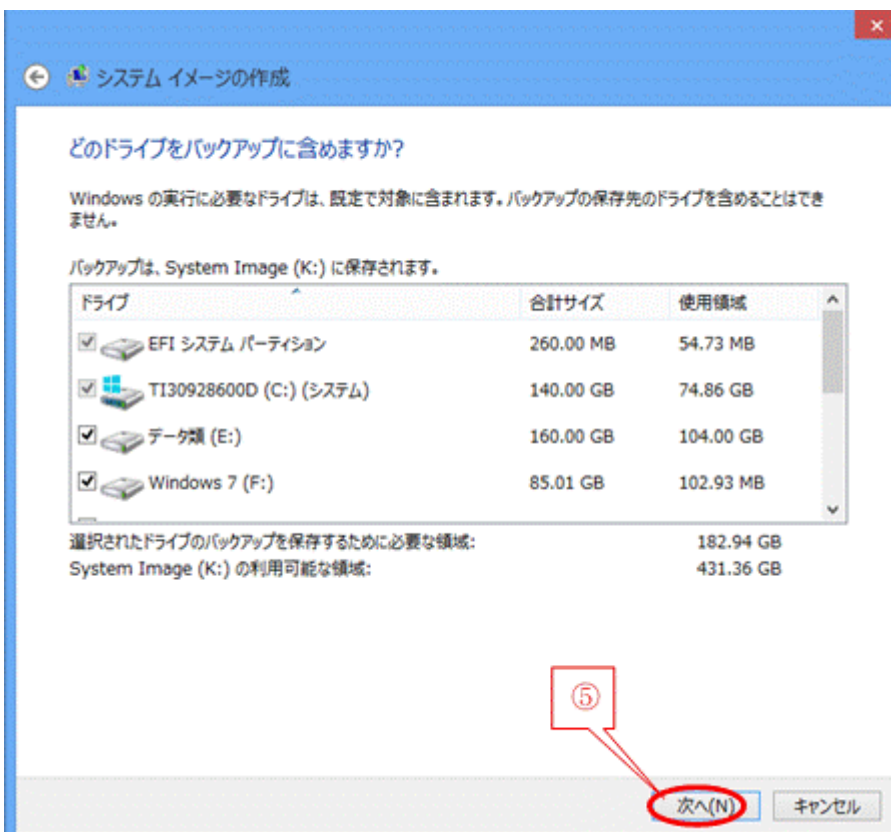
- ④ [システムイメージの作成] をクリックすると、接続されている外付 HDD を検索し、[システムイメージの作成 (バックアップをどこに保存しますか)] 画面を表示



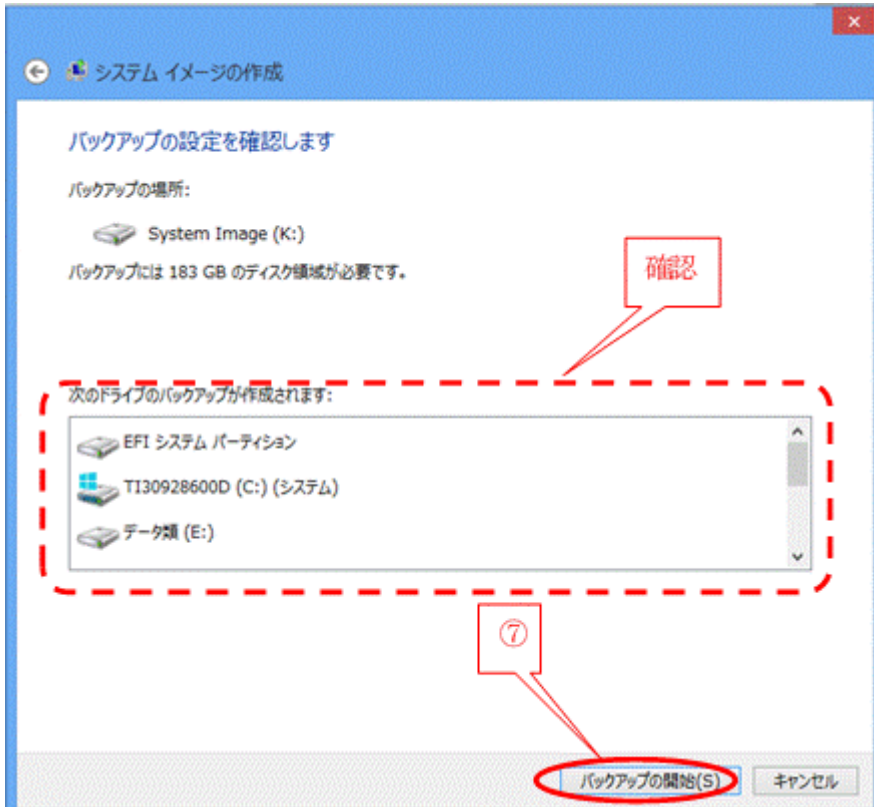
- ⑤ [ハードディスク上] がオンになっているのを確認した後、
ドライブリストを表示させて保存先のドライブを選択し、[次へ] をクリックして、[システムイメージの作成 (どのドライブをバックアップに含めますか)] 画面を表示



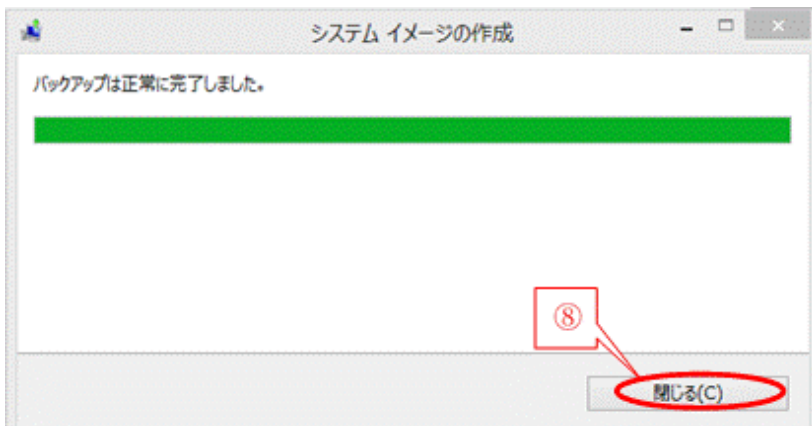
- ⑥ バックアップ対象として追加するドライブにチェックを付けた後、
[次へ] をクリックして、[システムイメージの作成 (バックアップの設定を確認します)] 画面を表示



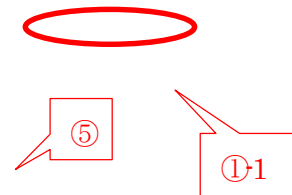
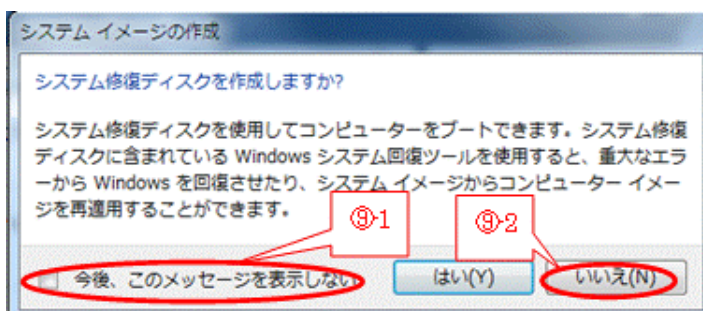
- ⑦ バックアップの対象ドライブを確認した後、
[バックアップの開始] をクリックすると、保存中の進捗画面を表示



- ⑧ バックアップが終了すると [システムイメージの作成 (バックアップは正常に完了しました)] 画面を表示するので、[閉じる] をクリックして処理を終了



- ⑨ [システムイメージの作成 (システム修復ディスクを作成しますか)] 画面が表示されたら、
[今後このメッセージを表示しない] にチェックを付けた後、[いいえ] をクリックする



(注) システム修復ディスクは、3.1.3 [システム修復ディスクの作成] ですでに作成済のため、二重作成になるので、ここでは作成する必要はない。

3.5.2. イメージバックアップからシステム HDD を復元

ここでは、3.5.1 項 [システム HDD のイメージバックアップ] で作成したイメージバックアップから内蔵 HDD を復元する方法について説明する。

別冊の「不具合対応にも使えるコントロールパネル (Win.7 用)」で説明した、3.1.3 項 [システム修復ディスク] で作成した CD-R を BIOS から起動しようとしたが、【手順 その 1】に示すようにループに陥り失敗した。

そのためここでは、3.1.2 項 [リカバリメディアの作成 (DVD 使用)] で作成した DVD-R DL を BIOS から起動し、イメージバックアップから復元する方法について説明する。

【手順 その 1】・・・システム修復ディスクを使用 *** この手順はループに陥り失敗した ***

この手順は BIOS を使用するため、スクリーンショット (**PrtrCr** キー) が採れないので画像を省略する。

- ① システムイメージをバックアップした外付 HDD を接続
- ② **Shift**+ [シャットダウン] で完全シャットダウン
- ③ 電源をオンにした後、**F2** キーを押して [BIOS] 画面を表示
- ④ システム修復ディスク (Windows 回復環境 : Windows RE) を挿入
- ⑤ **→**/**←** キーで [起動] タブを選択して [起動順位] パネルを表示
- ⑥ **↑**/**↓** キーで CD/DVD を選択
- ⑦ **F5**/**F6** キーで CD/DVD を最上位に移動
(注) **F5** キー : 下へ移動、**F6** キー : 上へ移動
- ⑧ **F10** キーを押した後、[はい] を選択して、BIOS の変更内容の保存を指示すると [BIOS] 画面が閉じて、CD/DVD ドライブへのアクセスが始まる
- ⑨ 「Press any key to Boot from CD or DVD・・・」が表示されるので、いずれかのキー (例 : Enter) を押すと、

数分後に「Press any key to Boot from CD or DVD・・・」が表示されループ状態に陥る

(捕捉) 予備として作成しておいた別のシステム修復ディスクを使用したが同様にループ状態に陥るので、システム修復ディスク (CD-R) からの復元をあきらめた。

そこで 3.1.2 項 [リカバリメディアの作成] で作成したリカバリ DVD (DVD-R DL、2 枚組) の 1 枚目から Windows RE を起動して、システムイメージバックアップからの復元を行ったところ

【手順 その 2】に示すように良好であった。

【手順 その 2】・・・リカバリメディアを使用 *** この手順で復元できた ***

- ① システムイメージをバックアップした外付 HDD を接続
- ② **Shift**+ [シャットダウン] で完全シャットダウン
- ③ 電源をオンにした後、**F2** キーを押して [BIOS] 画面を表示
- ④ リカバリメディア (DVD-R DL、2 枚組の 1 枚目) を挿入
- ⑤ **→**/**←** キーで [起動] タブを選択して [起動順位] パネルを表示
- ⑥ **↑**/**↓** キーで CD/DVD を選択
- ⑦ **F5**/**F6** キーで CD/DVD を最上位に移動
(注) **F5** キー : 下へ移動、**F6** キー : 上へ移動
- ⑧ **F10** キーを押した後、[はい] を選択して、BIOS の変更内容の保存を指示すると [BIOS] 画面が閉じ

て、CD/DVD ドライブへのアクセスが始まる

- ⑨ 数分後に「TOSHIBA Recovery Wizard」画面表示
(推測) 内蔵 HDD の最後部にある隠しパーティション (回復パーティション) は、メーカー独自の内容であるため、それから作ったリカバリ DVD もメーカー独自の内容になる。そのためメーカーが提供するウィザードでシステム回復オプションにアクセスするようになっているようだ?
- ⑩ [システム回復オプション] をオンにした後、
[次へ] をクリックして、[キーボードの選択] 画面を表示
- ⑪ 「日本語」が表示されるまで、[その他のキーボードを表示] を押してページを切り替える
- ⑫ [日本語] をクリックすると、[オプションの選択] 画面を表示
- ⑬ [トラブルシューティング] をクリックして、[トラブルシューティング] 画面を表示
- ⑭ [詳細オプション] をクリックして、[詳細オプション] 画面を表示
- ⑮ [イメージでシステムを回復] をクリックして、[イメージでシステムを回復 (目的のオペレーティングを選択してください)] 画面を表示
- ⑯ [Windows 8] をクリックして、[コンピュータイメージの再適用 (システムイメージバックアップの選択)] 画面を表示
- ⑰ 「利用可能なシステムイメージのうち最新のものを使用する」がオンであることを確認後、
[次へ] をクリックして、[コンピュータイメージの再適用 (他の復元方法を選択してください)] 画面を表示
- ⑱ [ディスクをフォーマットしてパーティションを再分割する] にチェックを付けた後、
[次へ] をクリックして、コンピュータイメージの再適用 (コンピュータは、以下のイメージから復元されます)] 画面を表示
- ⑲ [完了] をクリックして、システムイメージバックアップからの復元を実行させる

3.6. リフレッシュとリセット

リフレッシュとリセットは Win.8 から導入されたシステム復元の新機能であり、どちらもシステムをほぼインストール直後の初期状態に戻す機能である。

3.3.2 項 [復元ポイントを指定してシステムを復元]、3.5.2 項 [イメージバックアップからシステム HDD を復元] とは異なり、複数のバックアップから一つを選択して以前の状態に戻すことはできない。

リフレッシュやリセットでは、実行前の一部データや設定が残るものの、コンピュータはほぼ再インストールに近い状態に復元される。

3.6.1. リフレッシュ

1) 引き継ぐ項目、初期化する項目、削除する項目

- ① リフレッシュしても引き継がれる主な項目
 - ・ C:¥にユーザが作成した独自のフォルダ
 - ・ C:以外のドライブの内容
 - ・ 登録済みのローカルユーザー、アカウント、グループ設定、パスワード等
 - ・ ドメインへの参加設定 (ドメインかワークグループかの設定等)
 - ・ ライセンス認証情報

- ・ ホームグループ設定
 - ・ ドライブ文字の割り当てとマウントポイント
 - ・ 地域と言語の設定
 - ・ プログラムとファイルの種類の既定の関連付け
 - ・ イベントログ
- ② リフレッシュすると初期化される主な項目
- ・ Windows のシステムファイル (C:\Windows、C:\Program Files、C:\Program Files (x86)、C:\ProgramData 内のフォルダ/ファイル等)
すべて初期状態に戻るため、あらためて Windows Update の適用作業などが必要
 - ・ 既定の Windows ストアアプリ
 - ・ C:\Users\<プロファイル>\AppData」内のフォルダ/ファイル
- ③ リフレッシュすると削除される主な項目
- ・ C:\Users フォルダの内容 (ユーザプロファイル)
ただし「C:\Users\user01」といった、フォルダ名とそのツリー構造はそのまま残る
 - ・ ユーザデータ (プロファイルが削除されるため、プロファイル中に保存されているユーザデータも削除される)
 - ・ ユーザがインストールしたデスクトップアプリケーションや Windows ストアアプリ
 - ・ 「Windows の機能」で追加した設定
 - ・ 復元ポイントやバックアップ設定

2) リフレッシュの手順

ここでは、Win.8 で新しく導入された「リフレッシュ」の手順に説明しますが、リフレッシュでは前記のとおり初期化される項目や削除される項目が多数あり再インストールに近い。

このため、実機を使って実際にリフレッシュするのは躊躇されるので、3.5.2 項 [イメージバックアップからシステム HDD を復元] をベースにして、リフレッシュの手順を説明する。

【手順】

- ① システムイメージをバックアップした外付 HDD を接続
- ② **Shift**+ [シャットダウン] で完全シャットダウン
- ③ 電源をオンにした後、**F2** キーを押して [BIOS] 画面を表示
- ④ リカバリメディア (DVD-R DL、2 枚組の 1 枚目) を挿入
- ⑤ **→**/**←** キーで [起動] タブを選択して [起動順位] パネルを表示
- ⑥ **↑**/**↓** キーで CD/DVD を選択
- ⑦ **F5**/**F6** キーで CD/DVD を最上位に移動
(注) **F5** キー：下へ移動、**F6** キー：上へ移動
- ⑧ **F10** キーを押した後、[はい] を選択して、BIOS の変更内容の保存を指示すると [BIOS] 画面が閉じて、CD/DVD ドライブへのアクセスが始まる
- ⑨ 数分後に「TOSHIBA Recovery Wizard」画面表示
(推測) 内蔵 HDD の最後部にある隠しパーティション (回復パーティション) は、メーカー独自の内容であるため、それから作ったリカバリ DVD もメーカー独自の内容になる。そのためメーカーが提供するウィザードでシステム回復オプションにアクセスするようになっているようだ?
- ⑩ [システム回復オプション] をオンにした後、

[次へ] をクリックして、[キーボードの選択] 画面を表示

- ⑪ 「日本語」が表示されるまで、[その他のキーボードを表示] を押してページを切り替える
- ⑫ [日本語] をクリックすると、[オプションの選択] 画面を表示
- ⑬ [トラブルシューティング] をクリックして、[トラブルシューティング] 画面を表示
- ⑭ [PC のリフレッシュ] をクリックして、[PC のリフレッシュ] 画面を表示
- ⑮ [次へ] をクリックして、[PC のリフレッシュ (目的のオペレーティングを選択してください)] 画面を表示
- ⑯ [Windows 8] をクリックして、[PC のリフレッシュ (すべて準備できました)] 画面を表示
- ⑰ [リフレッシュ] をクリックして、リカバリメディア (DVD-R DL、2 枚組) から復元を実行させる

(注) 本当にリフレッシュを実行すると、リフレッシュ後の Windows Update、アプリのインストール、データの復元等に大変な時間と労力が必要なので、これから先のリフレッシュの手順は画面に表示される情報に従って処理を進めてください。

3.6.2. リセット

1) リセットと再インストールの違い

リセットと再インストールの違いは、言語、インストール先のパーティションの選択が不要な点だけといえる。

2) リセットの手順

リセットの手順は、3.6.1 項 [リフレッシュ] の 2) 項 [リフレッシュの手順] に準じて行う。

ただし、手順の⑭で [PC のリフレッシュ] に替わって、[PC を初期状態に戻す] をクリックして次に進む必要がある。

《 お疲れ様でした 》